

## ■朝倉氏略年表

年	西 暦	月 日	事 項
保延2年	1136	是歳	朝倉高清生まれる。
建保元年	1213	2月15日	朝倉高清没。
承久3年	1221	4月18日	朝倉信高、承久の乱の京方につく。
建長6年	1254	是歳	朝倉広景、但馬朝倉谷に生まれる。
建治元年	1275	5月	六条八幡宮造営注文に但馬国御家人八木三郎跡・朝倉八郎跡がみえる。
嘉元3年	1305	是歳	斯波高経生まれる。母親は朝倉庄地頭長井氏の一族。
正慶2年	1333	4月下旬	朝倉広景、斯波高経に属して出陣するという。
建武元年	1334	9月10日	斯波高経、越前守護としてみえる。
延元2年	1337	是歳	朝倉広景、但馬から越前に入国する。
康永元年	1342	是歳	朝倉広景、朝倉氏の氏寺の安居弘祥寺を創建する。
延文2年	1357	10月2日	朝倉高景、足羽庄預所職を宛行われるという。
貞治5年	1366	11月6日	朝倉高景、宇坂庄等の地頭職を宛行われる。
応安5年	1372	5月2日	朝倉高景没。
永享元年	1429	8月22日	朝倉氏、甲斐氏・織田氏と共に管領斯波氏の重臣としてみえる。
宝徳2年	1450	12月20日	朝倉家景没。家景、一乗城に居す。
長祿3年	1459	8月11日	朝倉孝景、和田合戦に勝利して在地の主導権を確立する。
寛正元年	1460	2月21日	朝倉孝景、阿波賀城戸口に合戦するという。
6年	1465	7月14日	光玖、一乗より足利義政に躰燭を進上する。
応仁元年	1467	正月18日	応仁の乱起きる。朝倉孝景、西軍方として奮戦する。
文明3年	1471	5月21日	朝倉孝景、東軍方につき越前守護職に関する御内書を得る。その後、甲斐氏を追い出して越前を平定する。
11年	1479	8月23日	一条兼良、越前に下向し、朝倉孝景・氏景父子と会う。
13年	1481	7月26日	朝倉孝景、一乗に病死する。これ以前「朝倉孝景条々」を書き子孫に残す。
		11月11日	朝倉氏景、館の表十五間座敷に代替の儀を行なう。
14年	1482	閏7月3日	一乗、失火により大火。重臣等焼死する。
18年	1486	7月3日	二代当主朝倉氏景没。
長享元年	1487	10月19日	朝倉景冬、六角征伐に参陣する。
延徳3年	1491	4月20日	朝倉貞景、美濃の斎藤妙純の娘を妻に迎える。
明応7年	1498	9月1日	足利義尹、越中より一乗に移る。
永正3年	1506	8月是月	朝倉貞景、越前一向一揆を鎮定する。
		12月是月	朝倉貞景、土佐光信に京中屏風一双をえがさせる。
5年	1508	是歳	朝倉貞景、一揆討死者のため阿波賀に経堂を建立する。
9年	1512	3月25日	三代当主朝倉貞景没。
13年	1516	6月5日	朝倉孝景（四代）、白傘袋・毛氈鞍覆の使用をゆるされる。
天文2年	1533	9月24日	朝倉義景生まれる。
17年	1548	3月22日	四代当主朝倉孝景没。
弘治元年	1555	9月8日	朝倉教景（宗滴）没。
永祿4年	1561	4月6日	朝倉義景、棗庄大窪浜に犬追物を行なう。
7年	1564	9月12日	朝倉義景、自ら出陣して加賀に進攻する。
10年	1567	11月21日	足利義昭、敦賀から一乗安養寺に入る。
11年	1568	5月17日	足利義昭、朝倉館に御成。
		9月26日	織田信長、足利義昭を奉じて上洛する。
元亀元年	1570	4月20日	織田信長、越前に進攻。以後、朝倉氏と対立抗争する。
天正元年	1573	8月20日	朝倉義景、大野で自尽する。この日まで三日にわたり一乗の谷中放火され、壊滅する。
2年	1574	正月19日	国中一揆、桂田（前波）長俊の抛る一乗を攻める。ついで陥落し、長俊殺される。
3年	1575	8月23日	織田信長、越前一向一揆を攻め、是日、一乗の谷へ本陣を移す。